

## 県の評価の視点

### 【目指す学校像】（構想骨子より）

すべての人と地球を支え続ける技術を磨く学校

### 【学びの方向性】（構想骨子より）

- 「情報技術」をベースに、課題を発見し、価値を生み出す力を養成
- キャリアを考えた育成コースで、多様かつ柔軟な選択肢を提供
- 人と自然に寄り添い、課題の解決に挑む技術者を育成

#### ○令和らしく、滋賀らしいカリキュラム

- ・情報技術
- ・社会実装
- ・社会デザイン

#### ○技術者交流・育成の「ハブ」機能

- ・学校教育の場
- ・学生と企業の技術者の交流の場
- ・小中学生が技術への憧れを育む場

### 【用地選定の基本的な考え方】（用地選定方針より）

#### ① 安全で豊かな教育環境

急激な学習環境の変化を見据えつつ、実験・実習をはじめとする多様な学びや学生活動を実現するため、将来の拡張性も見据えつつ、ユニバーサルデザインに配慮した安全で豊かな教育環境が求められる。

#### ② 県内全域・県外からの良好なアクセス

県内の中学卒業生徒が「高専への進学」という新たな選択肢を得ることができるよう県内全域からのアクセスを確保するとともに、県外からもアクセスしやすい立地が求められる。

#### ③ 県内大学や企業等との連携・交流

県立の高専ならではの特色あるカリキュラムを実現するため、県内の特色ある大学や企業等との連携・交流を図ることができる立地が求められる。

### 評価のポイント

○県内外から優秀な学生を集めうる、唯一無二の特色ある教育環境・実証フィールド

→校地の特性、多様な主体との連携等

○幅広い人材の交流可能性（技術者交流、小中学生との交流等）→立地等

○学習環境の変化に対応しうる、将来の拡張可能性

○地球環境意識や近江の心を育む、豊かな自然環境